

平成22年度第1回沖縄県がん診療連携協議会幹事会議事要旨

日 時 平成22年5月17日(月) 15:10~18:05  
場 所 琉球大学医学部管理棟2階小会議室、がんセンター  
構 成 員 6名 出席者5名

- 1号委員 (がんセンター長) 増田 昌人
- 2号委員 (北部地区医師会病院) 柴山 順子
- (沖縄県立中部病院) 上田 真
- (那覇市立病院) 友利 寛文
- 3号委員 (沖縄県福祉保健部) 宮里 達也 代理 大城 馨
- (総務課長) 濱野 満夫

- 陪席者 がんセンター
- 仲本 奈々
  - 城間 駒生
  - 松澤 智子
  - 南 文乃
  - 柚之原さと子
  - 西田悠希子

沖縄県福祉保健部医務課 前川 盛秀

○平成21年度第4回幹事会議事要旨(資料1)の確認があり、了承された。

**議 事**  
**報告説明事項**

**1. 平成21年度第4回沖縄県がん診療連携協議会について**

議長から、平成22年2月5日に開催された、平成21年度第4回沖縄県がん診療連携協議会について、資料2に基づき、報告があった。

**2. 部会報告**

**(1) 【緩和ケア部会】**

議長から、資料3に基づき昨年度からの事業計画の実績報告と評価および平成22年度事業計画の報告があった。

事業項目毎の状況は次のとおりであった。

〈実績報告と評価〉

- 1. 3年以内に宮古医療圏内(宮古市)及び八重山医療圏内(石垣市)でそれぞれ1回ずつの研修会を行う。

実績：沖縄県宮古事務所(旧宮古支庁)で緩和ケア研修会を2月に開催した。

●研修会1日目：平成22年2月14日(日)

●研修会2日目：平成22年2月28日(日)

3回の医療者向け講演会も同時期に開催決定。

次年度中には八重山医療圏内(石垣市)で開催予定。

評価：10点

- 2. 緩和ケア研修会指導者の育成

各拠点病院において、指導者研修会の受講修了者を精神部門1人、緩和ケア部門2人、それぞれ配置する。

また、国立がんセンター、日本緩和医療学会および日本サイコオンコロジー学会が行っている緩和ケアおよび精神腫瘍学指導者研修会において、沖縄県より毎回1人以上は必ず参加する。

実績： 病院名 身体部門(2名) 精神部門(1名)

北部地区医師会 友利健彦、未配置 未配置

沖縄県立中部病院 上田 真、三浦耕子 親富祖勝己

那覇市立病院	<b>友利寛文</b> 、未配置	未配置
琉大病院	比嘉達也、増田昌人 中村清哉	薬師 崇、高良聖治、比嘉あゆみ 外間宏人、久場禎三

※太字は、平成21年度修了者

評価：7点、拠点病院は、指導者研修会修了者は7割配置済。今年度は研修会へ4人参加。

3. 緩和ケア専門医療従事者を育てる。

実績：緩和ケア認定看護師＝5人（平成21年7月14日現在）

専門医師育成に関しては未実施

氏名	医療機関名
金城恵	日本赤十字社、沖縄赤十字病院
金城ユカリ	社会医療法人敬愛会、中頭病院
棚原陽子	琉球大学医学部附属病院
東恩納貴子	那覇市立病院
屋良尚美	沖縄県立中部病院

評価：4点、引き続き努力する。

4. 緩和ケア研修会の企画、実施を行う。

実績：4回の緩和ケア研修会（沖縄県緩和ケア研修会2009）を行った。

北部地区医師会病院	第一回	2009年	9月13日（日）、27日（日）
琉大病院	第二回	2009年	11月14日（土）、15日（日）
那覇市立病院	第三回	2009年	12月19日（土）、20日（日）
県立中部病院	第四回	2010年	1月30日（土）、31日（日）

評価：10点、受講者対象のアンケートでも好評の結果であった。

次年度：引き続き行う。

5. 緩和ケア病棟または緩和ケア病棟に準じた病棟普及を図る。

実績：緩和ケアにおける現状を把握するため、沖縄県全域を対象にした調査を実施する予定。

評価：0点

次年度：引き続き努力する。

6. 2次医療圏（地域）ごとに緩和ケア協議会を設置する。

実績：未実施

評価：0点

次年度：引き続き努力する。

7. ホスピス病棟を持つ病院・在宅医療との連携強化を行う。

実績：緩和ケアに関する意識調査と現状調査を一般向けおよび、医療者向けのアンケート作成中。

ホスピス緩和ケア病棟を持つ施設で使用している「診療情報提供書」の統一版書式を作成。

4月から実施。在宅医療に携わっている医師、訪問看護ステーションに携わっている看護師を部会委員に加え、一般病棟と在宅医療との連携強化のネットワークを構築中。

評価：4点

次年度：一般病棟関係者、在宅医療関係者のネットワークを広げ、横の連携を強化する。

8. がん診療を行っているすべての病院に緩和ケアチームを作る。

評価：0点

次年度：引き続き努力する。

9. 拠点病院緩和ケアチームと在宅医療を行う診療所（開業医）との合同カンファレンスを開催する。

実績：部会としては未実施。

評価：3点、那覇市立病院で合同勉強会が行われた。

次年度：引き続き努力する。

10. 拠点病院、およびそれ以外の病院において緩和ケア外来の普及を行う。

実績：各がん拠点病院にそれぞれ「緩和ケア外来」が開設された。

評価：7点

〈平成22年度事業計画〉

【育成】

1. 3年以内に宮古医療圏内（宮古市）及び八重山医療圏内（石垣市）でそれぞれ1回ずつの研修

を行う。

## 2. 緩和ケア研修会指導者の育成

- (1) 各拠点病院において、日本緩和医療学会および日本サイコオンコロジー学会が行っている緩和ケアおよび精神腫瘍学指導者研修会、もしくは国立がんセンター主催の緩和ケアおよび精神腫瘍学の都道府県基本教育のための指導者研修会の受講修了者を精神部門1人、緩和ケア部門2人をそれぞれ配置する。
- (2) 国立がんセンター、日本緩和医療学会および日本サイコオンコロジー学会が行っている緩和ケアおよび精神腫瘍学指導者研修会に沖縄県より毎回1人以上は必ず参加する。

		参加者
平成22年5月	緩和ケアの基本教育のための都道府県指導者研修 (日本緩和医療学会主催)	参加者未定
平成22年5月	精神腫瘍学の基本教育のための都道府県指導者研修 (日本緩和医療学会主催)	仲本 讓、堀田 洋 (琉大病院)
平成22年5月	緩和ケア基本教育のための都道府県指導者研修 (国立がんセンター主催)	足立源樹 (那覇市立病院)

## 3. 緩和ケア専門医療従事者を育てる。

### 【普及】

1. 年4回緩和ケア研修会の企画、実施を行う。

### 【強化】

1. ホスピス病棟を持つ病院・在宅医療との連携を強化する。
2. がん診療を行っているすべての病院に緩和ケアチームを作る。
3. 拠点病院緩和ケアチームと在宅医療を行う診療所（開業医）との合同カンファレンスを定期開催する。

### 【広報】

1. 緩和ケア認識の普及

## (2) 【地域ネットワーク部会】

議長から、資料4に基づき昨年度からの事業計画の実績報告と評価および平成22年度事業計画の報告があった。

事業項目毎の状況は次のとおりであった。

〈実績報告と評価〉

### 1. 乳がん地域連携クリティカルパスの作成

- 1-1 乳がんの院内クリティカルパスの作成ないしは改訂を行い、確実に運用開始する。
- 1-2 乳がん地域連携クリティカルパス作成のワーキンググループを設置する。
- 1-3 乳がん地域連携クリティカルパス（案）を作成する。

実績：平成20年9月にワーキンググループを設置し、乳がん地域連携パスの作成を開始した。

平成21年8月31日に乳がん地域連携クリティカルパス（案）が完成した。

平成21年12月から平成22年3月まで離島を含め14回の研修会を開催した。

評価：8点

次年度：平成22年4月から5大がん同時に地域連携クリティカルパスを運用開始する。

### 2. 胃がん地域連携クリティカルパスの作成

- 1-1 胃がんの院内クリティカルパスの作成ないしは改訂を行い、確実に運用開始する。
- 1-2 胃がん地域連携クリティカルパス作成のワーキンググループを設置する。
- 1-3 胃がん地域連携クリティカルパス（案）を作成する。

実績：平成20年9月にワーキンググループを設置し、胃がん地域連携パスの作成を開始した。

平成21年8月31日に胃がん地域連携クリティカルパス（案）が完成した。

平成21年12月から平成22年3月まで離島を含め14回の研修会を開催した。

評価：8点

次年度：平成22年4月から5大がん同時に地域連携クリティカルパスを運用開始する。

3. 肺がん地域連携クリティカルパスの作成

- 1-1 肺がんの院内クリティカルパスの作成ないしは改訂を行い、確実に運用開始する。
- 1-2 肺がん地域連携クリティカルパス作成のワーキンググループを設置する。
- 1-3 肺がん地域連携クリティカルパス（案）を作成する。

実績：平成20年9月にワーキンググループを設置し、肺がん地域連携パスの作成を開始した。  
平成21年8月31日に肺がん地域連携クリティカルパス（案）が完成した。  
平成21年12月から平成22年3月まで離島を含め14回の研修会を開催した。

評価：8点

次年度：平成22年4月から5大がん同時に地域連携クリティカルパスを運営開始する。

4. 肝がん地域連携クリティカルパスの作成

- 1-1 肝がんの院内クリティカルパスの作成ないしは改訂を行い、確実に運用開始する。
- 1-2 肝がん地域連携クリティカルパス作成のワーキンググループを設置する。
- 1-3 肝がん地域連携クリティカルパス（案）を作成する。

実績：平成20年9月にワーキンググループを設置し、肝がん地域連携パスの作成を開始した。  
平成21年8月31日に肝がん地域連携クリティカルパス（案）が完成した。  
平成21年12月から平成22年3月まで離島を含め14回の研修会を開催した。

評価：8点

次年度：平成22年4月から5大がん同時に地域連携クリティカルパスを運営開始する。

5. 大腸がん地域連携クリティカルパスの作成

- 1-1 大腸がんの院内クリティカルパスの作成ないしは改訂を行い、確実に運用開始する。
- 1-2 大腸がん地域連携クリティカルパス作成のワーキンググループを設置する。
- 1-3 大腸がん地域連携クリティカルパス（案）を作成する。

実績：平成20年9月にワーキンググループを設置し、大腸がん地域連携パスの作成を開始した。  
平成21年8月31日に大腸がん地域連携クリティカルパス（案）が完成した。  
平成21年12月から平成22年3月まで離島を含め14回の研修会を開催した。

評価：8点

次年度：平成22年4月から5大がん同時に地域連携クリティカルパスを運営開始する。

6. がん診療の地域連携に関するバックグラウンドを把握する。

① 沖縄県下の医療機関を対象に、がんにおける病診連携に関するアンケートを行い、がん診療の連携体制を構築する。

実績：沖縄県医師会の協力の下、沖縄県下の医療機関を対象に、がんにおける病診連携に関するアンケートを作成し、診療所620施設、病院55施設に発送した。アンケート結果を元に、がん診療連携体制を構築する予定。

評価：5点

次年度：アンケートで得た結果を発展させる。

② 沖縄県の病院機能調査の結果をもとに、病院別、臓器別の症例数を調査する。

病院においては、すでに調査を行ったが、診療所でのがんの手術を行っている施設の病院別、臓器別の症例数を調査する。

実績：沖縄県の病院機能調査の結果をもとに、5大がんの標準的ながん診療を行っている診療所を調査した。また、沖縄県医療機能調査では把握出来なかった、詳細な放射線治療実施状況や化学療法実施状況を把握するため、沖縄県の病院向けにFAXアンケート調査を実施した。このアンケートにより沖縄県内のがんに関する診療状況を把握した。

評価：5点

次年度：アンケートで得た結果を発展させる。

7. 学会および厚生労働省の研究班に積極的に参加し、情報収集を行うとともに、地域連携クリティカルパスについて学会等で報告する。

実績：「第10回日本クリニカルパス学会学術集会」

日程：2009年12月4日（金）～5日（土）

長良川国際会議場・岐阜都ホテル

○演題「沖縄県における全県統一乳がん術後地域連携クリティカルパス作成の試み」

仲本奈々（琉大）、その他

○演題「沖縄県における全県統一胃がん術後地域連携クリティカルパス作成」

増田昌人（琉大）、その他

「平成21年度水谷班オープンカンファレンス」

日程：2010年2月14日（日）13:00-17:00

評価：8点

次年度：引き続き努力する。

8. 宮古医療圏、八重山医療圏及び北部医療圏のがん医療の再考

実績：協議未実施

評価：1点

次年度：引き続き努力する。

9. 在宅がん医療の普及

実績：協議未実施

評価：1点

次年度：引き続き努力する。

10. 病理診断ネットワークの構築（離島、本島、拠点病院間）

実績：協議未実施

評価：1点

次年度：引き続き努力する。

〈平成22年度事業計画〉

1. 乳がん地域連携クリティカルパスの作成
  - 1-1 乳がんの院内クリティカルパスの運用を開始する。
  - 1-2 乳がん地域連携クリティカルパスの改訂を行う。
  - 1-3 評価を行う。
2. 胃がん地域連携クリティカルパスの作成
  - 1-1 胃がんの院内クリティカルパスの運用を開始する。
  - 1-2 胃がん地域連携クリティカルパスの改訂を行う。
  - 1-3 評価を行う。
3. 肺がん地域連携クリティカルパスの作成
  - 1-1 肺がんの院内クリティカルパスの運用を開始する。
  - 1-2 肺がん地域連携クリティカルパスの改訂を行う。
  - 1-3 評価を行う。
4. 肝がん地域連携クリティカルパスの作成
  - 1-1 肝がんの院内クリティカルパスの運用を開始する。
  - 1-2 肝がん地域連携クリティカルパスの改訂を行う。
  - 1-3 評価を行う。
5. 大腸がん地域連携クリティカルパスの作成
  - 1-1 大腸がんの院内クリティカルパスの運用を開始する。
  - 1-2 大腸がん地域連携クリティカルパスの改訂を行う。
  - 1-3 評価を行う。
6. 5大がん地域連携クリティカルパス研修会を企画開催する。年10回を目標。
7. 沖縄県がん診療連携協議会のホームページにがん地域連携クリティカルパスの一覧を掲載し、共有する。また、沖縄県がん地域連携クリティカルパス事業への参加医療機関の一覧やワーキンググループの活動報告などを公開する。
8. がん地域連携クリティカルパス事業に参加する医療機関を対象に、かかりつけ施設が受入可能な範囲を把握するためのアンケート調査を行う。
9. 5大がん以外のがんについての地域連携クリティカルパスを作成する。
10. 学会および厚生労働省の研究班に積極的に参加し、情報収集を行うとともに、地域連携クリティカルパスについて学会等で報告する。

### （3）【普及啓発部会】

議長から、資料5に基づき昨年度からの事業計画の実績報告と評価および平成22年度事業計画の報告があった。

事業項目毎の状況は次のとおりであった。

〈実績報告と評価〉

1. テーマを絞り一般向け講演会を開催する  
「子宮頸がん」を中心とした内容で《シリーズ化》する  
実績：以下のとおり4回の講演会を開催した。
  - 5月10日（日）に沖縄県がん診療連携協議会普及啓発部会主催「受けていますか？子宮がん検診。」と題し、子宮頸がんについての講演会を3会場（沖縄県立博物館・美術館、北部地区医師会北部看護学校、県立中部病院）同日程にて行った。参加者計100名：アンケート回収率78%
  - 7月13日（月）に沖縄県立看護大学にて1年生を対象とした「子宮がんについての講演会」を行った。  
参加者90名 回収率80%
  - 7月27日（月）におもと会沖縄専門看護学校4階にて特別講演会とし、1・2年生を対象とした「子宮がんについての講演会」を行った。  
参加者：181名 回収率89%
  - 12月11日（金）に北部地区医師会北部看護学校にて授業の一コマをいただき1.2.3年生を対象とした「子宮がんについての講演会（テーマ：子宮頸がん予防）」を行った。  
参加者：235名：95%評価：7点  
次年度：引き続き「子宮頸がん」をテーマに、一般向け講演会を行う。
2. 講演会を録画したものを、ライブラリー化し（4拠点病院のみ）視聴可能にする  
部会にて実施する講演会内容を録画し、各拠点病院で閲覧可能なライブラリー化する  
実績：過去の講演会データ保管済。琉大病院がんセンター、北部地区医師会病院は視聴可能。  
評価：5点  
次年度：講演会資料の増量を図り、患者利用率をアップさせる。全がん拠点病院で視聴できるよう環境整備を整える。
3. 各拠点病院にてがん種毎の担当医一覧を作成し、ホームページに掲載する  
実績：すべての拠点病院ホームページにおいて、がん種毎の外来担当医を掲載した。  
評価：10点  
次年度：引き続き、情報更新を行う。
4. 情報提供の地域格差をなくす  
情報格差をなくすため、離島圏における講演会を開催する。沖縄県を中心とした講演会を開催、または市や保健所を通して行われる健康キャンペーンに参加し、がん検診についての情報提供を行う  
実績：
  - 9月26日（土）に男女共同参画社会を目指したイベント「ていするフェスタ2009」にてワークショップを出店し、一般へのがん情報提供、早期がん検診の啓蒙活動を行った。
  - 11月3日（火）沖縄県との共催で、「女性の健康講座～あなたのため、あなたの大切な人のために～」と題し、宮古島（宮古支庁 講堂）にて女性のがんの予防を中心とした健康講座を開催した。参加者40名 アンケート回収率82.5%
  - 2月6日（土）沖縄県との共催で、女性の健康講座「知っておこう！婦人科がんのあんなことこんなこと」と題し、石垣島 石垣健康福祉センター2F視聴覚室で講演会を実施した。  
参加者38名 アンケート回収率100%
  - 「子宮がん検診」についてのチラシを作成し、沖縄県内の各市町村へ配布した。評価：9点  
次年度：引き続き、沖縄県と協力し、講演会を開催する。
5. 養護教員向けに子宮がんについての講習会を行う  
沖縄県教育庁保健体育課にご協力いただき、普及啓発部会委員が養護教員向けの講習会を開く  
実績：未実施  
評価：0点  
次年度：対象を学校教員向けへ変更し、教育庁保健体育課へ協力願う。
6. 日本対がん協会とタイアップしてリレー・フォーライフを行う

日本対がん協会が推進しているリレー・フォーライフについて、沖縄県にて開催する際の広報協力を行う

実績：平成22年3月13・14日に開催のリレー・フォーライフに参加して、広報活動を行った。3部会のブース内容は以下のとおりである。

「緩和ケア」ブース	緩和ケアに関する相談 緩和ケア関連ビデオ放映 リンパ浮腫緩和マッサージ
「普及啓発」ブース	大腸がん検診啓発アンケート配布 がん情報冊子配布 子宮がんについての講演会
「相談支援」ブース	がん相談コーナー がん相談支援センターチラシ配布 タオル帽子展示・手作り体験コーナー

評価：7点

次年度：引き続き、リレー・フォーライフにて広報活動を行う。

7. がん関連のDVD、および講演会録画データを視聴可能な場所、および機器を設置する事業計画2に基づき、ライブラリー化したデータや関係機関より送付いただく資料を視聴できる環境整備を行う。

実績：琉大病院がんセンターでは、センター内でのがん関連DVD視聴、がんについての冊子、本の情報ブースを設置。センター外でも、がん関連イベント、相談支援センターのご案内等お知らせコーナーが設置された。また、北部地区医師会病院では、がん関連DVD視聴が可能となった。

評価：7点

次年度：引き続き、現在未設置である病院へのがん情報収集のための環境整備を整える。

8. がん検診キャンペーンを具体化する  
ピンクリボンキャンペーンなどのように、各5大がんのキャンペーンの内容の詳細を来年度に向けて協議し、いずれかを実施する

実績：今年度は子宮頸がんについての広報活動を重点的に行った。

評価：1点

次年度：テーマを「大腸がん」に一般企業を対象とした検診啓発の講演会を行う。(出前講演会)

9. インターネットが利用できない人の為に、その他の情報提供手段を考える  
各市町村で配布している広報紙に相談窓口などの情報を提供できるよう働きかける

実績：

- 宮平乳業の製品に「がん検診」を促す無料広告を掲載し、10月16日より店頭で販売された。
- 健康フリー情報誌「ココル」3月号へ、がん診療連携協議会及びがん患者ゆんたく会他、がん関連イベントについての広告を掲載した。

評価：9点

次年度：引き続き、情報提供を行う。

10. 協議会ホームページの内容の充実を図る  
協議会のホームページでは、検診に限らず地域のがんの現状、対策、普及啓発、地域の病院の診療内容などを表示する

実績：

- がん診療連携協議会及び各部会の活動報告他、医療関係者のための研修会情報が掲載された。
- 各地区（北部・中部・南部・離島圏）で行われている、がん患者ゆんたく会広報や拠点病院及び県内セカンドオピニオン実施医療機関リストを掲載した。

評価：6点

次年度：地域のがんの現況やがんに関する一般向け情報の充実を図るため、リニューアルする。

11. 沖縄県生活習慣病検診管理協議会、アクションプラン推進協議会、沖縄禁煙協議会と相互に情報提供および交換を行う

実績：未実施

評価：0点

次年度：引き続き努力する。

〈平成22年度事業計画〉

1. テーマを絞り一般向け講演会を開催する。  
「子宮頸がん」を中心とした内容で啓蒙を踏むための講演会を開催する。
2. 講演会を録画したものを、ライブラリー化し（4拠点病院のみ）視聴可能にする。
3. 各拠点病院にて、がん種毎の担当医一覧を作成し、ホームページに掲載する。
4. 情報提供の地域格差をなくす。
5. 学校教員向けに子宮がんについての講習会を行う。
6. 日本対がん協会とタイアップしてリレー・フォーライフを行う。
7. がん関連のDVDおよび講演会録画データを視聴可能な場所、および機器を設置する事業計画2に基づき、ライブラリー化したデータや関係機関より送付頂く資料を視聴できる環境整備を行う。
8. がん検診キャンペーンを具体化する。
9. インターネットが利用できない人の為に、その他の情報提供手段を考える。
10. 協議会ホームページの内容の充実を図る。
11. 沖縄県生活習慣病検診管理協議会、アクションプラン推進協議会、沖縄禁煙協議会と相互に情報提供および交換を行う。

#### (4) 【がん登録部会】

議長から、資料6に基づき昨年度からの事業計画の実績報告と評価および平成22年度事業計画の報告があった。

事業項目毎の状況は次のとおりであった。

〈実績報告と評価〉

1. 院内がん登録と地域がん登録とのすり合わせとその活用を行う  
①沖縄県に国立がんセンターが推奨する「地域がん登録標準データベース」を導入する。  
実績：平成21年3月19日に、沖縄県がん診療連携協議会議長より沖縄県知事宛てに、国立がんセンターが推奨する地域がん登録標準データベースの導入に関する要望書を提出した。その後、平成21年7月に導入にかかる補正予算が認められ、平成21年9月に沖縄県に国立がんセンターが推奨する「地域がん登録標準データベース」が導入され、12月に稼働した。沖縄県において院内がん登録様式と地域がん登録様式の統一様式が完成した。  
評価：10点  
②拠点病院以外で、「HosCanR」を使用し院内がん登録を行っている10施設において「HosCanR」の「地域がん登録用として印刷用届出票を出力」を利用し、地域がん登録の届け出を行うよう働きかける。また、「HosCanR」以外を使用している施設でも、同様の届け出が出来るようにカスタマイズを行うよう働きかける。  
実績：「HosCanR」を使用し院内のがん登録を行っている施設において、地域がん登録の届け出を行った。  
評価：5点  
次年度：引き続き努力する。
2. 拠点病院以外への院内がん登録の普及を図る  
沖縄県で地域がん登録の対象としている医療機関55施設において、院内がん登録を普及させるため、順次初期指導を開始する。  
実績：平成20年度に医療法人信和会沖縄第一病院で院内がん登録を開始した。平成21年度に医療法人寿仁会沖縄セントラル病院で初期指導を行い、院内がん登録を開始した。県立南部医療センター、県立北部病院、県立宮古病院、県立八重山病院でも院内がん登録を開始するために初期指導をおこなった。県立南部医療センターは平成22年4月から登録開始、県立宮古病院は6月から登録開始予定。県立北部病院と県立八重山病院は登録時期を検討中である。

〈院内がん登録を行っている医療機関〉

- 1) 琉球大学医学部附属病院
- 2) 北部地区医師会病院
- 3) 沖縄県立中部病院
- 4) 那覇市立病院
- 5) 浦添総合病院
- 6) ハートライフ病院
- 7) 豊見城中央病院
- 8) 中部徳洲会病院
- 9) 南部徳洲会病院
- 10) 中頭病院
- 11) 那覇西クリニック
- 12) 沖縄第一病院
- 13) 沖縄セ

ントラル病院 14) 県立南部医療センター

評価：8点

次年度：引き続き努力する。

3. 沖縄県の地域がん登録および拠点病院の院内がん登録の強化を図る  
実績：国立がんセンターの主催する地域および院内がん登録研修会に参加する  
初級者研修終了者5名 中級者研修終了者0名 指導者研修終了者2名(平成21年度)

- ・北部地区医師会病院(初級修了者2名)
- ・沖縄県立中部病院(初級修了者1名)(指導者修了者1名)(初級者研修講師1名)
- ・那覇市立病院(初級修了者1名)(初級者研修講師1名)(指導者継続研修)
- ・琉球大学医学部附属病院(初級修了者2名)
- ・沖縄県衛生環境研究所(地域がん登録研修1名)

評価：7点

次年度：引き続き努力する。

4. 院内がん登録研修会を企画開催する(研修部会との共同作業)

① がん種毎に《シリーズ化》年に4回を目標に「院内がん登録研修会」を企画開催する。

実績：今年度は4回の研修会を行った。第1回(8月15日)、第2回(11月14日)は初級者向けコーディングをメインに開催。第3回(1月16日)は、大阪府立成人病センターの井岡亜希子先生の講演会を開催した。第4回(3月20日)は、国立がんセンター登録室長の西本 寛先生の講演会を開催した。参加者は60~100名程度。

評価：10点

次年度：引き続き実施する。

② これから院内がん登録を開始する医療機関向けに初期導入研修会を企画開催する。

実績：早急に沖縄県内における院内がん登録の普及を図るため、特に国立、県立、公的病院での導入を行った。今年度に初期指導を行う施設の数値目標を5施設とし、院内がん登録導入のための研修会のチラシを作成し配布した。平成21年度に医療法人寿仁会沖縄セントラル病院、県立南部医療センター、県立北部病院、県立宮古病院、県立八重山病院へ院内がん登録を開始するための初期指導を行った。

評価：10点

次年度：引き続き実施する。

5. 沖縄県の地域および院内がん登録対象医療機関の見直しを行う。

実績：沖縄県保健医療計画をもとに、地域および院内がん登録対象医療機関の見直しを行った。がん登録の対象医療機関は271施設で、特に専門的ながん診療を実施している23施設をリストアップした。

評価：10点

6. 登録漏れを防ぐため、登録すべき腫瘍候補の見つけ出しを強化する。

実績：協議未実施

評価：1点

次年度：引き続き努力する。

7. 4拠点病院でがん登録統計の統一様式を作成する。

県内の拠点病院間の比較を容易にするため、各病院で院内がん登録統計を作成する際に、それぞれ病院毎に異なる様式ではなく、統一した様式の帳票を作成する。

実績：全国と比較しやすい点などから、昨年11月に報告された拠点病院院内がん登録の全国調査の様式に統一する。沖縄県独自に追加したい集計項目は、全国フォーマットを元に現在検討中。

評価：3点

次年度：引き続き努力する。

8. 院内がん登録及び地域がん登録の定期開示を行う

① 院内がん登録の集計結果を各拠点病院のホームページ等に公開する。

② 沖縄県と4拠点病院の集計結果を「沖縄県がん診療連携協議会・がん登録部会」ホームページに公開する。

③ 沖縄県の「沖縄県地域がん登録事業報告書」に加えて、拠点病院の集計結果をまとめ、「沖縄県院内がん登録報告書」を作成し、それぞれを医療機関や市町村に配布する。

実績：昨年11月に報告された拠点病院院内がん登録の全国調査の様式に統一する。さらに、2月

に提供される拠点病院の施設ごとの集計結果を、各施設のホームページにて公開することとなった。

評価：3点

次年度：引き続き努力する。

9. がん登録部会の活動を学会等で報告する。

実績：下記の学会で発表。

- 1) 第35回日本診療情報管理学会学術大会

日程：平成21年9月17日～18日

場所：アクトシティ浜松

発表者：仲本奈々（琉大）

- 2) 第41回沖縄県公衆衛生学会・大会

日程：平成21年11月13日（金）

場所：沖縄市町村自治会館

発表者：仲本奈々（琉大）、南文乃（琉大）

評価：3点

次年度：引き続き努力する。

10. 施設の登録患者の生存率を計測する。

実績：協議未実施

評価：1点

次年度：引き続き努力する。

#### 〈実績報告と評価〉

1. 院内がん登録と地域がん登録とのすり合わせとその活用を行う

①地域がん登録へ協力する医療機関数を増やす。

②拠点病院以外で、「HosCanR」を使用し院内がん登録を行っている10施設において「HosCanR」の「地域がん登録用として印刷用届出票を出力」を利用し、地域がん登録の届け出を行うよう働きかける。また、「HosCanR」以外を使用している施設でも、同様の届け出が出来るようにカスタマイズを行うよう働きかける。

2. 拠点病院以外への院内がん登録の普及を図る。

3. 沖縄県の地域がん登録および拠点病院の院内がん登録の強化を図る。

4. 院内がん登録研修会を企画開催する。

5. 院内がん登録の定期開示を行う。

6. 地域がん登録の定期開示を行う。

7. がん登録部会の活動を学会等で報告する。

8. 施設の登録患者の生存率を計測する。

9. 予後情報を沖縄県地域がん登録情報より抽出できるよう働きかける。

#### (5) 【研修部会】

議長から、資料7に基づき昨年度からの事業計画の実績報告と評価および平成22年度事業計画の報告があった。

事業項目毎の状況は次のとおりであった。

##### 事業計画

1. 医師向けの早期診断の研修会

実績：計画どおり、研修会を4回開催した。

評価：9点

次年度：参加者を増やす必要がある。

2. 院内および地域クリティカルパス研修会開催

実績：研修会を14回開催した。

評価：8点

次年度：地域ネットワーク部会で継続して開催する。（研修部会事業から削除）

3. 緩和研修会における看護師・薬剤師の指導者、ファシリテーターを育成する。

- 実績：緩和研修会で看護師・薬剤師別ロールプレイシナリオを作成し、実施した。  
 評価：3点  
 次年度：看護師・薬剤師の緩和ケア研修会への参加者が少ない。参加者を増やす必要がある。
4. がん看護研修会の開催  
 実績：1回開催  
 評価：5点  
 次年度：病院間の連携や看護協会との取り組みも不十分。研修の枠組み等の構築が必要。
5. 認定薬剤師制度の活用、薬剤師向けの研修会開催  
 実績：
  - ・緩和ケア研修会で単位認定講座（日本緩和医療薬学会）として確約
  - ・12月（緩和ケア）と1月（在宅ケア）に単位認定（日本緩和医療薬学会）の勉強会を2回開催した。
  - ・沖縄県薬剤師会学術大会で、「緩和薬物療法認定制度（日本緩和医療薬学会）」の単位取得を実現
  - ・沖縄県内病院薬剤師に対して、日本病院薬剤師会が企画している「がん専門薬剤師制度」に則って行う。
  - ・沖縄県開局薬剤師に対して「沖縄県薬剤師会」と共催で「がん研修修了薬剤師制度」を立ち上げることを平成22年度事業計画に取り上げて頂くことが承認された。
 評価：10点  
 次年度：研修会の質の向上と内容の充実が必要。実施回数、参加者数の目標設定。沖縄県開局薬剤師に対して、「沖縄県薬剤師会」と共催で「がん研修修了薬剤師制度」を策定する。
6. 協議会メンバーによる研修会  
 実績：無し  
 評価：0点  
 次年度：協議会メンバーによる企画が必要。
7. 医療ソーシャルワーカー向けの研修会開催  
 実績：計画通り開催した。  
 評価：10点  
 次年度：相談支援部会で継続する。（研修部会事業計画から削除する）
8. 診療情報管理士向けの研修会を開催する  
 実績：計画通り研修会を4回開催した。  
 評価：8点  
 次年度：がん登録部会で継続する。（研修部会事業計画から削除する）
9. 研修会の人材バンク（講演者リスト）の作成  
 実績：概ね、県内主要病院のリストはできている。  
 評価：9点  
 次年度：利用された実績（講演者リストと演題）が公表されると良い。
10. 県内病院・施設主催の研修会（院内も含む）リストの作成  
 実績：各がん拠点病院及のホームページで施設主催の研修会案内、実績リストはない。がん診療連携協議会ホームページの「研修カンファレンスご案内」も極めて不十分である。  
 評価：2点  
 次年度：今後検討する。
11. 放射線技師・検査技師向けコメディカルスタッフを対象とした研修会を開催する  
 実績：放射線治療に携わっていない技師の参加も見られたが、放射線治療を有する全施設の参加までに至っていない。  
 評価：10点  
 次年度：放射線治療専門認定技師の単位を得る研修会や講演会があれば、多くの参加者が期待できる。

〈平成22年度事業計画〉

1. 医師向けの早期診断のための研修会  
年4回開催する。
2. がん看護研修会の開催

- 初級・中級・上級で年4回開催する。(全コース修了者に、がん看護認定資格授与予定)
3. 認定薬剤師制度の活用、薬剤師向けの研修会実施
  4. 協議会メンバーによる研修会
  5. 研修会の人材バンク（講演者リスト）の作成
  6. 県内病院・施設主催の研修会（院内も含む）リストの作成
  7. 放射線技師向けメディカルスタッフを対象とした研修会を開催する。
  8. 検査技師向けメディカルスタッフを対象とした研修会を開催する。

## (6) 【相談支援部会】

議長から、資料8に基づき昨年度からの事業計画の実績報告と評価および平成22年度事業計画の報告があった。

事業項目毎の状況は次のとおりであった。

〈実績報告と評価〉

1. 沖縄県全体のがん種別セカンドオピニオンリストを作成する  
 沖縄県内ではがん治療を行っている医療機関の実態調査を行い、沖縄県全体のがん種別セカンドオピニオンリストを協議会ホームページに掲載する。  
 実績：沖縄県がん診療連携協議会ホームページに4拠点病院及びセカンドオピニオンを実施している9施設のがん種別セカンドオピニオンリストを掲載した。  
 評価：9点
2. 各拠点病院間のがん相談支援ネットワークの構築と、診療所も含めた全県的ながん相談支援ネットワークの構築を行う。  
 実績：がん診療を行っている病院・診療所等のがん相談支援員実務者に依頼文書を7月に送付。平成21年11月にがん相談実務者ネットワークのメーリングリストを作成し、がんに関する情報の交換、共有を図っている。  
 評価：7点  
 次年度：引き続き連携を図る。
3. インターネットを利用した患者向けがん情報を発信する（協議会ホームページおよび拠点病院ホームページ上で、各種がんの基本情報、サロンや患者会等の紹介、セカンドオピニオンリストなどを公開する）  
 実績：平成21年11月沖縄県がん診療連携協議会ホームページ（相談支援部会）にて、4拠点病院およびセカンドオピニオンを実施している9施設の合計13施設の院内がん種別セカンドオピニオンリストを作成、掲載した。  
 評価：8点  
 次年度：県内情報の集約を行いホームページに掲載する。
4. 各拠点病院にがん患者及びその家族が心の悩みや体験等を語り合うための場（サロン）を設置する  
 実績：
  - ・北部地区医師会病院 ⇒第1回～3回「北部がん患者ゆんたく会」に協力した。  
 平成21年度11月より北部地区医師会病院主催で「やんばるゆんたく会」を開催。（5回迄開催済）
  - ・県立中部病院 ⇒緩和ケア委員会が患者・家族を対象とした勉強会を毎週木曜日に開催  
 第1回「中部がん患者ゆんたく会」に協力した。  
 平成21年度12月より県立中部病院主催で「中部地区ゆんたく会」を開催（4回開催済）
  - ・那覇市立病院 ⇒那覇がん患者ゆんたく会「がん患者サロン」5月より毎月第3水曜日開催（第9回迄開催済）
  - ・琉大病院⇒「沖縄がん患者ゆんたく会」6月より毎月開催（第10回迄開催済）  
 「中部がん患者ゆんたく会」9月より開催（第2回迄開催済）  
 「北部がん患者ゆんたく会」8月より開催（第3回迄開催済）  
 宮古島がん患者ゆんたく会⇒2月より開催（第2回（3/27）迄開催済）
 評価：8点  
 次年度：八重山地区「石垣がん患者ゆんたく会」を開催する（6月開催予定）
5. 拠点病院におけるがん相談支援員の質の向上と、それ以外の病院におけるがん相談支援センタ

一の設置とそれに対する沖縄県からの支援を求める

実績：平成21年度国立がんセンター相談支援センター相談員基礎研修会へ参加した。

平成21年度厚生労働省科学研究費補助金 がん臨床研究事業主催の研修会に参加した。

病院名	研修会名称	参加者名
那覇市立病院	「がん当事者との協働のあり方」 を考えるワークショップ	樋口 美智子

平成19-21年度厚生労働省科学研究費補助金 がん臨床研究事業主催の研修会に参加した。

病院名・施設名	研修会名称	参加者名
北部地区医師会病院	がんカウンセラー養成講座	仲村 美和子
沖縄県立中部病院	〃	渡嘉敷 利恵
〃	〃	屋良 尚美
那覇市立病院	〃	樋口 美智子
〃	〃	高江洲 アヤ子
琉球大学医学部附属病院	〃	石郷岡 美穂
〃	〃	西田 悠希子
マインドケアおきなわ	〃	崎浜 海里

第3回沖縄県がん診療連携協議会にて、「がん相談支援室の環境整備・人材育成」について提言済。  
沖縄県がん対策アクションプランにて、「がん相談支援室の環境整備・人材育成」について提言済。

評価：8点

次年度：引き続き、研修会等へ参加する。

6. 定期的開催される相談員研修会を企画・開催する

実績：拠点病院、沖縄県医療ソーシャルワーカー協会共催で、地域がん診療連携拠点病院職員、医療機関等ががん相談支援業務に携わるMSW等を対象に平成21年度4月より毎月開催（現在9回迄開催済）。

那覇市立病院 緩和ケア委員会との共催で、平成21年10月30日（金）緩和ケア（コミュニケーション）研修会「がん医療におけるコミュニケーションの基礎知識と技術」をテーマに開催し好評を得た。

評価：10点

次年度：研修会を定期的開催する。

7. ピアサポーターの養成と各拠点病院でのピアサポートを実施する。

状況：未実施

評価：4点、ピアサポーター養成講座の情報収集及びピアサポーターのがんカウンセラー養成講座に参加した。

次年度：ピアサポーターの養成講座を開催予定

8. 各拠点病院におけるがん種別院内患者会の設置、病院の垣根を越えたがん種別患者会連合会の結成の支援、更にはがん種横断的がん患者会の結成の支援とそれぞれに関しての沖縄県からの支援を求める

実績：未実施

評価：4点

次年度：引き続き、努力する。

9. 拠点病院共通の相談記録様式を使用し、データ解析を行い公表する。

実績：本年4月より4拠点病院共通の相談記録様式を使用し、運用及び解析を行っている。

評価：6点

次年度：解析結果は、協議会ホームページへ掲載予定

10. セカンドオピニオンの普及および啓蒙を兼ねたアンケート調査を、拠点病院およびがん治療を行っている県内の医療機関の医師・患者を対象に実施する。

実績：平成21年度7月1日より4拠点病院のセカンドオピニオンを受診した患者を対象にアンケートを実施した。

平成21年度3月8日より4拠点病院の医師を対象にアンケートを実施した。

評価：7点

次年度：医師向けアンケート結果の解析結果は、協議会ホームページへ掲載予定

11. セカンドオピニオン受診サポートプログラムの実現に向けて支援を求める。

実績：未実施

評価：1点、ノースウエスト航空の実施についで情報収集を行い情報共有を図った。

〈平成22年度事業計画〉

1. がん病態、標準的治療法等がん診療及びがんの予防・早期発見等に関する一般的な情報の提供体制の整備
2. 診療機能、入院・外来の待ち時間及び医療従事者の専門とする分野・経歴など、地域の医療機関及び医療従事者に関する情報の収集、提供体制の整備
3. 地域の医療機関及び医療従事者等におけるがん医療の連携協力体制の事例に関する情報の収集、提供体制の整備
4. セカンドオピニオンの提示が可能な医師の紹介体制の整備
5. がん患者の療養上の相談体制の整備
6. アスベストによる肺がん及び中皮腫に関する医療相談体制の整備
7. (その他相談支援に関すること) 相談支援に関し十分な経験を有するがん患者団体との連携協力体制の構築

(7) 【がん政策部会】

議長から、資料9に基づき、がん政策部会の成立経緯等及び委員構成等の説明があった。委員の構成及び事業内容は次のとおりであった。

〈委員〉

- ・天野 慎介 (部会長) (協議会委員)
- ・井岡亜希子 (大阪府立成人病センターがん予防情報センター企画調査課課長補佐)
- ・海辺 陽子 (NPO法人がんと共に生きる会副理事長)
- ・埴岡 健一 (協議会委員)
- ・安岡佑莉子 (NPO法人高知がん患者会「一喜会」会長)
- ・山城 紀子 (フリージャーナリスト)
- ・友利 健彦 (北部地区医師会病院外科部長)
- ・上田 真 (協議会委員)
- ・宮里 浩 (協議会委員)
- ・増田 昌人 (がんセンター長)

〈事業内容〉

1. 「沖縄県がん対策推進基本条例がん政策部会試案」の作成
2. 「がんに関する政策提案書」の作成

**審議事項**

1. 平成22年度協議会、幹事会および部会委員の変更と、それに伴う規約の改正について  
議長から、資料10に基づき、協議会の議題について説明があり、審議の結果、原案どおり承認され、協議会で審議願うことになった。
2. 「うちなーがん募金」について  
議長から、資料11に基づき、協議会の議題について説明があり、審議の結果、原案どおり承認され、協議会で審議願うことになった。
3. 「沖縄県がん対策推進基本条例」について  
議長から、資料12に基づき、協議会の議題について説明があり、審議の結果、原案どおり承認され、協議会で審議願うことになった。

4. 「沖縄県がん患者会連合会」と「がん患者会」について  
議長から、資料13に基づき、協議会の議題について説明があり、審議の結果、本案は協議会では報告事項とすることとなった。
5. 「沖縄県準がん診療連携拠点病院」について  
議長から、資料14に基づき、協議会の議題について説明があり、審議の結果、本案は協議会では報告事項とすることとなった。
6. 「タウンミーティング」と「平成23年度沖縄県のがん対策に向けた政策提案書」について  
議長から、資料15に基づき、協議会の議題について説明があり、審議の結果、本案は協議会には提出しないこととなった。
7. 「5大がん地域連携クリティカルパス」について  
議長から、資料16に基づき、協議会の議題について説明があり、審議の結果、本案は協議会では報告事項とすることとなった。
8. 「患者必携」について  
議長から、資料17に基づき、協議会の議題について説明があり、審議の結果、原案どおり承認され、協議会で審議願うこととなった。
9. 「地域医療再生基金」を用いた「沖縄県地域医療再生計画」について  
議長から、資料18に基づき、協議会の議題について説明があり、審議の結果、本案は協議会には提出しないこととなった。
10. 那覇市「がん患者とその家族のこころのケアサロン事業」について  
議長から、資料19に基づき、協議会の議題について説明があり、審議の結果、本案は協議会では報告事項とすることとなった。
11. 院内及び地域がん登録データの一般公開について  
議長から、資料20に基づき、協議会の議題について説明があり、審議の結果、本案は協議会では報告事項とすることとなった。
12. 県立病院における院内がん登録について  
議長から、資料21に基づき、協議会の議題について説明があり、審議の結果、本案は協議会では報告事項とすることとなった。
13. 「地域発：がん対策市民協働プログラム」ゆりかごプロジェクト  
「『がんかわら版』出前屋」について  
議長から、資料22に基づき、協議会の議題について説明があり、審議の結果、本案は協議会では報告事項とすることとなった。
14. 平成22年度第1回協議会の議題調整について  
議長から、資料23に基づき、説明があり、以下のとおり取り扱うこととなった。
  - ・第1号議案については、協議会での第1号議案とする。
  - ・第2号議案については、協議会での第3号議案とする。
  - ・第3号議案については、協議会での第2号議案とする。
  - ・第8号議案については、協議会での第4号議案とする。
  - ・第6号議案と第9号議案については、取り下げとする。
  - ・その他7議案については、報告事項とする。
15. その他
  - (1) 講演会の開催について  
議長から、協議会終了後に講演会を次のとおり開催するとの説明があった。

日時：6月11日（金）午後6時～8時

場所：臨床講義等2階大講義室

演題①「患者の声をがん医療に反映させるために」

講師：松本 陽子（愛媛がん患者・家族会おれんじの会理事長）

演題②「がん医療における質を考える」

講師：東 尚弘（東京大学大学院医学系研究科公衆衛生学教室

公共健康医学専攻健康医療政策学分野 准教授）

(2) がんタウンミーティングの開催について

議長から、「第4回沖縄県のがん対策に関するタウンミーティング」の開催について、次のとおり説明があった。

日時：6月13日（日）午後1時～4時

場所：ラグナガーデンホテル 2階 「明海の間」

○次回幹事会 平成22年8月16日（月） 15:00～